

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	成人看護学総論	1(30)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1学年前後期	15回	
実務経験	■ 有 □ 無		
目 標	1. 成人期の各段階の身体的・精神的・社会的特徴について理解する。 2. 成人期に起こりやすい健康問題と健康問題が社会生活に及ぼす影響を理解する。 3. 成人期の健康レベルに対応した看護の特徴を理解する。 4. 成人期における患者への看護技術の特徴を理解する。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	成人看護学概要 成人とは	1. ライフサイクルからみた成人期 2. ライフサイクルの区分 3. 成人期の人はどんな人？
	2	成人各期の3側面の特徴	1. グループワーク 2. グループ発表
	3	青年期の特徴	1. 青年期とは 2. 青年期の3側面の特徴 3. 青年期の特徴と健康問題とその予防
	4	壮年期の特徴 向老期の特徴	1. 壮年期とは ・壮年期の3側面の特徴 2. 壮年期の特徴と健康問題とその予防 3. 向老期とは ・向老期の3側面の特徴 4. 向老期の特徴と健康問題とその予防
	5	生と死の動向 受療状況	・寿命 ・平均寿命と健康寿命 ・死亡数・死亡率 ・死因 ・受療状況 ・入院期間
	6	ヘルスプロモーション	1. ヘルスプロモーションとは 2. 個人の主体的な健康づくり 3. 健康増進のための環境づくり
	7	生活習慣に関する健康問題	1. 生活習慣と健康問題 2. 生活習慣病
	8	ストレスに関する健康問題	・ストレスとは ・ストレス反応の過程 ・成人の生活とストレス ・ストレスと健康問題 ・ストレスコーピング
	9	労働に関する健康問題	・労働とは ・労働者の健康問題の種類 ・ワークライフバランス
	10 11	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	看護における健康状態の経過とは 1. 急性・回復期の特徴 2. 急性・回復期の患者のニーズ・家族のニーズ 3. 急性・回復期にある患者への看護援助
	12	慢性病との共存を支える看護	1. 慢性期の特徴 2. 慢性期の患者のニーズ・家族のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助
	13	障害がある人の生活とリハビリテーション看護	1. リハビリテーション期の特徴 2. リハビリテーション期の患者のニーズ・家族のニーズ 3. リハビリテーション期にある患者への看護援助
	14	人生の最期のときを支える看護	1. 終末期の特徴 2. 終末期の患者のニーズ・家族のニーズ 3. 終末期にある患者への看護援助
	15	学習者である患者への看護技術	・エンパワメントエデュケーション ・セルフマネジメント ・コンプライアンス ・自己効力感
		テスト	
教科書 参考書	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院		
評価方法	筆記試験で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	成人看護学 I	2(45)	外部講師
	開講時期	講義回数	
	1学年後期	22回	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目 標	1.各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。 2.各機能の検査時の看護を理解することができる。 3.各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。 4.各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。 5.各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	循環機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助、地域医療との連携)
	2		3.検査を受ける患者の看護 ・心臓カテーテル ・心電図(不整脈の読み取り)
	3		4.薬物療法を受ける患者の看護 ・降圧薬 ・利尿薬 ・抗狭心症薬 ・抗不整脈 ・抗凝固薬 ・抗血栓薬
	4		5.カテーテル治療を受ける患者の看護 経皮的冠動脈インターベンション(PCI)
	5		6.心臓血管外科手術を受ける患者の看護 ・バイパス術 ・弁置換術
	6		7.補助循環装置を装着する患者の看護 ・大動脈内バルーンパンピング
	7		8.事例:慢性心不全の急性増悪時の患者の看護 アセスメントと看護
	8		9.事例:急性心筋梗塞の患者の看護(心臓リハビリテーション) アセスメントと看護
	9	呼吸機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助、地域医療との連携)
	10		3.検査・治療を受ける患者の看護 ・気管支鏡検査 ・胸腔穿刺 ・胸腔ドレーン挿入
	11		4.薬物療法を受ける患者の看護 ・喘息発作時の看護 ・生活指導
	12		5.肺切除術を受ける患者の看護 1.開胸術 2.胸腔鏡下手術
	13		6.放射線療法を受ける患者の看護 7.化学療法を受ける患者の看護
	14		8.人工呼吸器を装着する患者の看護 9.気管切開を受ける患者の看護
	15		10.事例:慢性閉塞性肺疾患患者の看護 アセスメントと看護
	16	消機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助、地域医療との連携)
	17		3.胃切除術を受ける患者の看護 4.肝切除術の受ける患者の看護
	18		5.胆石の治療を受ける患者の看護 ・経皮経肝胆管ドレナージの管理 ・内視鏡的逆行性胆道ドレナージの管理
	19		6.肝炎の治療を受ける患者の看護 ・インターフェロン療法時の看護 7.肝がんの治療を受ける患者の看護 ・肝動脈塞栓術時の看護 ・経皮的ラジオ波焼灼療法時の看護
	20		8.事例:人工肛門造設術を受ける患者の看護 アセスメントと看護
	21		9.事例:肝硬変の患者の看護 アセスメントと看護
22			
	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 呼吸器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 循環器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 消化器		
評価方法	筆記試験各科目総合試験100点満点で評価を行う。(疾病論 I に準じる)		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	成人看護学Ⅱ	2(45)	外部講師
	開講時期	講義回数	
	1学年後期	22回	
実務経験	■ 有 □ 無		
目 標	1.各機能障害をもつ患者の身体的・心理・社会的問題の特徴と看護の役割を理解することができる。 2.各機能の検査時の看護を理解することができる。 3.各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。 4.各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。 5.各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	運動機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助)
	2		3.症状に対する看護:疼痛・循環・神経障害
	3		4.検査を受ける患者の看護:脊椎造影検査・関節造影検査
	4		5.保存料を受ける患者の看護:ギブス固定を受ける患者の看護 副子固定を受ける患者の看護 牽引療法を受ける患者の看護
	5		6.手術を受ける患者の看護:上肢の手術と看護 下肢の手術と看護
	6		7.事例:脊椎損傷の患者の看護 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 アセスメントと看護
	7		
	8	脳・神経機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助)
	9		3.症状・障害のある患者の看護:意識障害 言語障害 運動麻痺 運動失調・不随意運動 痙攣 感覚障害 呼吸障害 頭蓋内圧亢進
	10		
	11		
	12		4.治療を受ける患者の看護:開頭手術 化学療法・放射線療法
	13		
	14		5.事例:脳梗塞患者の看護 パーキンソン病患者の看護 アセスメントと看護
	15		
	16	内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助)
	17		3.薬物療法を受ける患者の看護 4.甲状腺摘出術を受ける患者の看護
	18		5.甲状腺機能障害をもつ患者の看護 6.副腎機能障害をもつ患者の看護
	19		7.事例:バセドウ病患者の看護 橋本病患者の看護 アセスメントと看護
	20		8.患者の看護:糖尿病、高尿酸血症、高脂血症、肥満
	21		9.食事療法・運動療法・薬物療法を受ける患者の看護
	22		10.血糖測定・インスリン注射の実際
	テスト		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 運動器		
参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 脳神経		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 内分泌・代謝		
評価方法	筆記試験各科目総合試験100点満点で評価を行う。(疾病論Ⅰに準じる)		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	成人看護学Ⅲ	1(30)	外部講師
	開講時期	講義回数	
	1学年後期	15回	
実務経験	■ 有 □ 無		
目 標	1.各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。 2.各機能の検査時の看護を理解することができる。 3.各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。 4.各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。 5.各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	血液・造血機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助)
	2		3.症状のある患者の看護: 貧血 出血傾向 易感染(白血球減少)状態
	3		4.検査・治療をうける患者の看護: 骨髄穿刺・生検 輸血時 がん薬物療法 造血幹細胞移植
	4		
	5		5.事例:急性骨髄性白血病患者の寛解導入時の看護 アセスメントと看護
	6	腎・泌尿器機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(身体的、心理・社会的特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助)
	7		3.症状のある患者の看護: 浮腫 下部尿路症 尿の性状異常 疼痛
	8		4.検査・治療を受ける患者の看護: 尿検査 画像検査 腎生検 血液透析・腹膜透析 腎移植
	9		
	10		5.事例:慢性腎不全・慢性腎臓病患者の看護 アセスメントと看護
	11	女性生殖機能障害をもつ患者の看護	1.患者の特徴(婦人科の特徴) 2.看護の役割(身体的、心理・社会的な問題への援助)
	12		3.症状のある患者の看護: 性器出血 帯下・掻痒感 疼痛 自律神経失調症
	13		4.検査・治療を受ける患者の看護: 外診・内診 ホルモン療法
	14		
	15		5.事例: 卵巣がん患者の看護 乳がん患者の看護 アセスメントと看護
	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 女性生殖器 医学書院		
評価方法	筆記試験各科目総合試験100点満点で評価を行う。(疾病論Ⅰに準じる)		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	成人看護学IV	1(30)	外部講師
	開講時期	講義回数	
	1学年後期	15回	
実務経験	■ 有 □ 無		
目 標	人生の最期のときにある人の健康生活を理解するために、人間にとっての死、全人的苦痛(トータルペイン)、死とともに生きることについて学び、人生の最期のときを支える看護について、看護の目的、態度、役割の視点から理解する。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	人生の最期のときを支える看護	1.終末期医療の現状 2.人間にとっての死 3.全人的苦痛(トータルペイン)
	2 3	緩和ケアの現状と展望	1.緩和ケアの歴史と発展 2.緩和ケアの理念
		緩和ケアにおけるチームアプローチ 緩和ケアにおけるコミュニケーション	1.緩和ケアにおけるチームアプローチの意義 2.チームアプローチにおいて求められる専門性 1.看護師のコミュニケーションの意義 2.むずかしい場面でのコミュニケーション
	4	緩和ケアにおける倫理的問題	1.生命倫理 2.意思決定支援 3.緩和ケアをめぐる倫理的課題
	5	全人的ケアの実践	1.身体的ケア:苦痛をやわらげ日常生活を営むための援助 2.心理的ケア:病によるストレス対処の力とその支援 3.社会的ケア:住み慣れた地域での暮らしの支援 4.スピリチュアルケア:「生・老・病・死」と向き合う苦を支える
	6		
	7	緩和ケアの広がり	さまざまな疾患における広がり 1.悪性腫瘍 2.心疾患 3.呼吸器疾患 4.神経難病 5.脳血管疾患 6.腎疾患
	8	臨死期のケア	1.臨死期における全人的苦痛の緩和 2.死亡前後のケア
	9	家族のケア	1.家族ケアのあり方 2.家族ケアの方法 3.グリーフと遺族ケア
	10	医療スタッフのケア	1.ストレスマネジメント 2.マインドフルネス
	11	アロマセラピー	1. アロマセラピーの実際 2.家族、遺族に対するケア 3.スピリチュアルケア 4.身体・精神・社会的ケア
	12		
	13		
	14		
	15	テスト	
教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア		
参考書	日本看護協会出版 アロマセラピー入門		
評価方法	筆記試験で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属	
専門分野	成人看護学V	1(30)	外部講師	
	開講時期	講義回数		
	2学年前期	15回		
実務経験	■ 有 □ 無			
目 標	手術・麻酔による侵襲からの生体反応と、周手術期にある看護の特徴について学ぶ。			
授業内容	回	項 目	内 容	
	1	自己紹介	自己紹介	
	2	今日の外科看護の特徴と課題	1. 外科看護とは 2. 外科看護の役割と課題 3. 外科看護の流れと看護の要点	
	3	外科医療の基礎	4. 手術侵襲と生体の反応 5. 炎症 6. 感染症	
	4 5	外科的治療を支える分野	7. 麻酔法 ・全身麻酔 ・硬膜外麻酔 ・脊髄くも膜下麻酔 ・局所麻酔	
	6 7	外科的治療を支える分野	8. 呼吸管理 9. 体液管理 10. 輸血療法	
	8 9	外科的治療の実際 周手術期看護の概論 手術中患者の看護	11. 外科的基本手技 12. 滅菌物の管理 13. 手術中の看護 ・器械出し看護師の役割 14. 手術室の環境管理	
	10 11	手術中患者の看護	15. 手術中看護の要点	
	12 13	手術前患者の看護	16. 外来診療の変化に対応した外来看護師の役割 17. 外来における手術前の患者の看護 18. 手術前の具体的援助	
	14 15	手術後患者の看護	19. 手術後の回復を促進するための看護 20. 術後合併症の発生機序 21. おこりやすい術後合併症の予防	
		テスト		
	教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論	医学書院 医学書院	
	評価方法	筆記試験で評価を行う。		